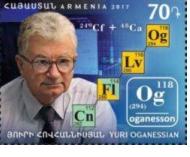


原子番号	元素記号	元素名	元素と切手について	選ばれた1切手	切手データ (発行国、発行年、説明、 画像縮小率など)
111	Rg	レントゲニウム roentgenium	ドイツの重イオン研究所の大型線形加速器UNILACを使って、83番元素ビスマスの薄膜に28番元素ニッケルのビームを照射して生成させた。レントゲンの名前が挙げられたのは、彼が1895年にX線を発見してから100年後（1994年）に因むと言われている。用途は研究用。		エジプト 1995 38%
112	Cn	コペルニシウム copernicium	ドイツの大型線形加速器UNILACを使って、82番元素鉛の薄膜に30番元素亜鉛のビームを照射して生成させた。その後、ロシアの研究所と日本の理化学研究所が追試に成功し、新元素として定まった。元素名は二コラウス・コペルニクスに因む。用途は研究用。		アメリカ 1973 48%
113	Nh	ニホニウム nihonium	日本で、そして東洋で初めて発見された元素。理化学研究所超重元素研究グループが2003年から実験を開始。83番元素ビスマスの薄膜に30番元素亜鉛のビームを照射する実験を総計400兆回。2004年に初めて崩壊過程をとらえることに成功。その後2005年、2012年の2回の成功を経て、理研に命名権が与えられ2016年に正式決定。		日本 2017 37%
114	Fl	フレロビウム flerovium	ロシアのドブナ合同原子核研究所の加速器を使って、94番元素ブルトニウムの薄膜に20番元素カルシウムのビームを照射して生成に成功した。1998年に初めて発見された後、多くの議論を経て2012年にIUPACによって正式に元素名が定まった。合同研究所内のフリョロフ原子核反応研究所に因む。用途は研究用。		ロシア 2013 53%
115	Mc	モスコビウム moscovium	米国とロシアの共同研究のもと、実験はロシアのドブナ合同原子核研究所で行われた。95番元素アメリシウムの薄膜に20番元素カルシウムのビームを照射して生成させた。元素名は合同研究所のあるモスクワ州に因む。2016年に命名された4元素の一つ。用途は研究用。		ロシア 1994 43%
116	Lv	リバモリウム livermorium	新元素リバモリウムの名は、ロシアのドブナ研究所と共同発見した米国カリフォルニア州リバモア市のローレンス・リバモア国立研究所に因む。米国のこの切手は、近景にサンフランシスコ・オークランド・ベイブリッジ、遠景にオークランド市街の航空切手。実はこの切手の視線の先、彼方に、ローレンス・リバモア国立研究所がある。		アメリカ 1947 42% (参考地図)
117	Ts	テネシン tennesseine	米国とロシアの共同研究のもと、実験はロシアのドブナ合同原子核研究所で行われた。97番元素バークリウムの蒸着薄膜に20番元素カルシウムのビームを照射して生成させた。成功まで7ヵ月を要した。2016年に命名された元素名は、バークリウムを提供した米国オークリッジ国立研究所のあるテネシー州に因む。		アメリカ 1996 45%
118	Og	オガネソン oganesson	2016年にニホニウムと共に命名された、現在、最も原子番号が大きな元素。周期表の終点。名前は超アクチノイド元素研究に貢献したロシアの物理学者オガネシアン(1933-)に由来。α崩壊する事でOg→Lv→Fl→Cnと壊変していく。この壊変履歴により118オガネソンの生成が証明された。存命中の人物が元素名になった二例目。		アルメニア 2017 44%

(注1) 初日印とは、切手やはがきの発行日に、その1日限定の、初日押印のために使われる消印。切手やはがきの図柄とあわせたデザインが施されることが多い。

(注2) 46パラジウムに採用したトンガの円形切手の中央には、パラジウムコインがエンボス印刷されている。切手そのものには金属元素としてのパラジウムは含まれていないが、世界で初めてトンガがパラジウムの硬貨を発行したこと記念して発行された切手であるため採用している。この切手の金属分析結果については、『切手に用いられた金属箔の分析』齋藤正巳（本紀要13号）に詳しい。